

2023 年度事業報告

〔 自 2023 年 4 月 1 日
至 2024 年 3 月 31 日 〕

2023 年度事業報告

1. 全般状況

(1) 概況

2023 年度は、上半期、6 月のエレベーター改修(11 日間)、7 月の空調故障(14 日間)による、イレギュラーな運用があったものの、役職員挙げての誘客努力と、新型コロナウイルス感染症の 5 類への移行もあり、来館者数は、個人客を中心として、前年度を上回る推移を確保しました。一方で、下半期、秋の行楽シーズンにおいては、コロナ禍における団体客が、県外の目的地を選好する傾向等が生じ、更なる誘客努力を講じたものの、来館者数は減速を見ました。年間で、目標としていた 20 万人には届きませんでした。一方で、コロナ禍前の 2019 年度(20.7 万人)との比較では、来館者数は、全体で 88.0%に留まったものの、有償来館者数では 98.1%まで引き上げることができました。結果として、2023 年度来館者数は、前年度対比で 3.9%増の 182,124 人となりました。

また、事業収入については、有償来館者数の増加のほか、空港売店(バイプレーン)を、当年度 4 月 1 日より再開した効果があり、来館者数を超える伸びの 22.9%増を確保しました。事業収入のうち入館料収入については、2019 年 8 月の博物館リニューアルに伴う入館料の値上げ(大人のみ 200 円値上げ)や 2022 年 4 月に行った団体・前売り券などの割引率の変更(20%→10%)の効果により、2019 年度対比で 105.0%と、コロナ禍前を上回る収入を確保しました。

(2) 来館者数および事業収入(公益・収益)の推移

月	開館日数 (日)	来館者数 (人)	対前年比	事業収入※1 (千円)	対前年比	備考
4 月	26	11,043	102.8%	13,132	116.3%	
5 月	26	16,467	104.6%	17,945	114.9%	
6 月	26	11,995	101.9%	12,341	118.9%	※2
7 月	26	14,859	113.2%	15,046	114.0%	※3
8 月	31	23,519	117.8%	26,145	133.9%	
9 月	26	16,144	95.0%	16,999	117.3%	
10 月	26	15,932	90.4%	16,942	118.9%	
11 月	26	17,986	97.3%	17,454	117.5%	
12 月	24	9,851	89.2%	12,328	124.4%	

1月	26	13,099	98.7%	16,882	118.9%	
2月	25	14,869	126.1%	17,498	146.2%	
3月	27	16,360	111.6%	19,776	131.8%	
計	315	182,124	103.9%	202,488	122.9%	※4

※1 事業収入は、入館料、展示体験料、売店・レストラン・自販機売上等、日々の主要科目の計上

※2 6月18日(日)～30日(金) 本館エレベーター改修工事の為入館料半額(11日間)

※3 7月11日(水)～26日(水) 空調の故障の為入館料半額。熱中症対策として水ボトルおよびうちわ配布(14日間)

※4 空港売店(パイプレン)の収入は事業収入合計の15.8%(32,089千円)。

(3) コロナ感染症対策

2023年3月13日に「マスク着用の考え方」が変更となり、5月8日には5類感染症に移行したことを受け、適宜、政府の指針、行政からの要請等を踏まえ、従来からの(公財)日本博物館協会のガイドラインによる対策を見直し、お客様に安全で安心できる環境を提供しました。

2. 事業の取り組み状況について

(1) 誘客の努力

① 企画展示及びイベント等の順次開催

企画展示、講演会等イベントを、2023年度の行事計画のほか、期中の新規考案行事を含めて、当館の独自開催のイベント5件、企画展示3件、航空・空港関係者との共同イベント15件、県・町との共同イベント5件、他航空系博物館・学校等の教育機関との共同イベント4件、合計35件の行事を順次開催しました。

当年度は、千葉県150周年記念のパネル展示や、成田空港開港45周年のイベントの会場としての活用や、博物館のユニークメニューとして、夜の貸し切り音楽ライブの開催、文化をつなぐミュージアムとして、新春の能舞台、地域に開かれた社会教育施設として、町の子供会の「英会話イベント」、地域交流の場として、町観光協会主催の「夏祭り・盆踊り」等、博物館法が改正されたことを受け、様々な方々との連携・協力により、当館の「航空・空港と地域を結ぶ懸け橋」としての役割を果たし、地域の活力の向上へ寄与できるよう取り組みを行いました。

また、(一財)日本航空協会の航空系博物館連携プロジェクト「ライトフライヤー号初飛行120年イベント」を、全国の航空系博物館6館と連携して行うことができました。

年間を通じて、当館の使命である航空思想の普及に資すると共に、関係者との連携により、地域の賑わいの創出に寄与することができました。

② 常設展示の見直し

常設展示について、来館者の安全・安心、満足度向上のため、展示物の点検、維持管理を適切に行い、関係者のご協力もいただきながら、展示点数の増加や収蔵物との入れ替えにより展示の充実を図りました。また、博物館法の改正によるデジタルアーカイブ化に向けて、収蔵物の整理・管理、再評価を開始しました。

この他、体験展示物の運用を見直し、来館者の体験の機会を増やし、DC8 フライト体験を前年度対比 19%増の 8,886 人（前年度 7,482 人）、B747 大型模型操縦体験を 66%増の 12,448 人（7,506 人）、B747 セクション 41 搭乗体験を 30%増の 3,022 人（2,334 人）と、来館者数の伸びを超えて、航空の魅力を楽しむ機会を提供することができました。これらは、ボランティアの方々からの前年度以上の支援があり実現ができたものです。

③ 多言語化の着手

インバウンド等外国人の来館者を増やすため、年度下期の企画展示から、解説パネル内の解説文に英語を併記し、エントランスホールや受付カウンターの案内表示を英語併記に刷新しました。また、案内パンフレットの英語版を新たに作成し、館内に備置するとともに、成田空港ターミナルビルのツーリストインフォメーションセンター等で配布頂けるように調整しました。

④ 団体客の取り込み

前年度に引き続き小中学生の校外学習の団体客の取り込みに力を入れたものの、来館者数は前年度に届かず、29,030 人に留まりました。一方、新規開拓により、団体数は前年度を上回る 501 団体としました（前年度 462 団体 30,716 人、前々年度 342 団体 28,041 人 ※20 人以上を集計）。その内、養護施設や高齢者の方々 57 団体（前年度 42 団体）の利用もあり、ユニバーサルツーリズムの視点からも貢献することができました。なお、当年度もバスの収容スペース不足を解決するため、スカイパークしばやまエリア全体での課題として、グリーンポートエコ・アグリパークの駐車場を臨時使用させていただき調整もしました。

団体の内訳を見ると、県内からの団体は縮小したものの（289 団体 19,801 人（全体の 68.2%））、都内から 60 団体（前年度 46 団体）、茨城県から 52 団体（20 団体）、埼玉県から 40 団体（13 団体）、神奈川県から 13 団体（12 団体）、インバウンドを台湾、中国を中心に 4 か国 14 団体（2 か国 3 団体）等、県内外からの団体数を増やすことができ、また県内の出発地も 48 市町村（前年度 44、前々年度 41 市町村）と、より多くのエリアから誘客をすることができました。

また、障がい者福祉団体向けに、レストランでの刻み食の提供やバリアフリー動線の案内等、SDGsに取り組む当館として、社会貢献にも力を入れました。

当年度、団体客の取込みにあたっては、129 社の旅行代理店と調整・連携を図りました。（前年度 112 社、前々年度 61 社）

⑤ メディア等への訴求

プレス等、マスコミに取り上げられる機会を数多く創出し、積極的に当館のプロモーションを実施しました（ニュース・雑誌等 32 件 20 社、メディア等出演 3 件 3 社）。また、TV 番組や映画撮影への協力を積極的に行い、当館の知名度の向上と魅力の発信の努力をしました（6 件 6 社）。なお、メディア等に訴求する際には、空港圏、「スカイパークしばやま」に所在する博物館であることの自覚を忘れることなく、当館のみならず地域全体をプロモーションする意識で対応しました。

⑥ 積極的な対外発信

ホームページやX(Twitter)を活用し、お客様へ適時の情報発信を行いました。X(Twitter)は、航空ファン向けの話題を充実させると共に、スカイパークしばやまの話題を織り込むなど、一般観光者向けの話題も取り入れ、フォロワーを前年度の9,761人から、当年度は約25%増の12,217人となりました。

ホームページは、NAAの支援を受けながら改修を進めて来ましたが、大幅に内容を刷新したりニューアル版を3月末より公開しました。従来の課題であった、公共交通機関を利用して来館する個人客の取り込みを強化するため、博物館へのアクセスの情報整理を行い、来館予定者にとってわかりやすい案内としました。また、新たな翻訳ツールを導入し、英語版のわかりやすさを改善すると共に、新たに、ホームページ上に、団体予約のページを追加することで、お客様利便の向上を図りました。

⑦ 新規マーケットの開拓

成田空港活用協議会や千葉プロモーション協議会、千葉県観光物産協会が主催する商談会の場に参加し、県外からの誘客や教育旅行誘致の促進を積極的に図りました。また、旅行事業者や地域の観光協会等と共に、当館およびスカイパークしばやまエリア等を含んだツアー造成に関わり誘客に努めました。

前売り電子チケットを、4社と提携し、各社の宣伝媒体の力も借り、電子チケットでの来館者数を前年度比107%の19,202人(全体の10.5%(前年度10.2%))としました。

また、優待割引制度を、25社と提携し、それぞれとのプロモーション連携を図りましたが、前年度対比6%減43,129人となり、新たなパートナーシップ等、連携の在り方を見直しております。

以上の取り組みを通じて、県外から広く誘客ができた結果が、当年度の来館者数増につながっており、今後とも県外の新規マーケットに向けた働き掛けを継続して参ります。

(2) 航空業界の担い手不足に対する貢献

① 空港・航空業界の魅力発信

空港・航空業界の関係者の方々との協働により、「集まれ！NARITA 空港車輛展」や「ANA お仕事体験教室」、「JGS グランドハンドリング教室」等を開催し、普段は経験することのできない空港・航空の仕事を体験し魅力を感じられるイベントとして、来館者の好評を得ることができました。

また、JAL・ANAをはじめとした、現役のパイロット・客室乗務員・グラウンドスタッフ・整備士の方、税関の方、元管制官の方、また、航空給油や航空物流関係の方を、「やさしい航空のおはなし」等の講師として招き、空港で働くことの意義を伝えると共に、航空に憧れを抱き、空港が魅力的に感じるようなイベントとして好評を博しました。

この他にも、将来の航空業界の担い手を育むイベントとして「夢へのフライトプラン～航空学校説明会～」を、航空関係の大学・専門学校17団体の協力により、空の日・空の旬間記念行事として開催し、千葉県の協力により、県内の全中学校・高校500校以上にイベントポスターの配布をした

ことから、当日は、小中高生 616 人を含む、1,646 人の来館者で賑わいました。特に、当年度は、NAA との協働により、空港見学バスツアーを同時開催することができ、ターゲット層である中高校生の集客力が近年で最も良い年となりました。

② 成田空港の魅力発信

2023 年度は、成田空港開港 45 周年のイベントを年間を通じて折々開催していただきました。また、館内常設の「NAA コーナー」において、1/800 サイズの空港ジオラマ、空港の仕事(31 種)を紹介する大型スクリーン、空港スタッフの制服(12 種)を着衣した合成写真が撮れるブース、エコエアポートの取り組みを紹介するブース等を展示し、地域の方々を含め、来館者に広く成田空港の魅力を発信する広告塔としての役割を果たしました。また、コーナーに設置した、更なる機能強化により伐採した山桜のベンチやパンフレットの配布により、サステナブル NRT2050 の対外発信に寄与しました。

③ 空飛ぶ学び舎ラボとの協働

外部パートナーとの共創による新たな価値創造に向けたチャレンジとして、前年度に開設した空飛ぶ学び舎ラボとの連携により、従来取り込みが十分ではなかった中高生の教育旅行団体を、関東圏のみならず、中京・北陸・東北エリアまで拡大し取り込むことができました。また、同ラボが芝山町と地域活性化包括連携協定を結び、町と共に目指す「航空教育の聖地化」事業、また、「スカイパークしばやまの観光活性化」事業とのシナジー効果により、当館の運営の深度化を図ることができております。

④ 地域の学校教育への貢献

空港・航空業界の関係者の方々との連携し、キャリア教育として、空港の仕事を学ぶ機会等を、空港圏の児童・生徒・学生を含め提供することができました。また、芝山町の国際教育の一環として、町の教育委員会・子ども会等と、英語教育の場に活用いただきました。

(3) 観光を活用した地域づくりへの貢献

① スカイパークしばやまの中核施設としての貢献

空と大地の歴史館・芝山水辺の里・エコアグリパークを含めた「スカイパークしばやま」の発展に貢献するため、町や関係事業者との協力体制を強化し、特に、2023 年度は、「スカイパークしばやま連絡協議会」の発足に関わり、2 月には、「第 1 回スカイパークしばやまベジタブルマラソン」の走行コースとして、当館を活用いただきました。

② 地域の情報発信拠点としての貢献

2023 年度も引き続き、従来からの館内の壁面等の活用と併せて、芝山町をはじめ、空港圏の観光案内、ポスターの掲示・ちらしの配布等、地域の観光資源の情報発信拠点として、地域の賑わい創出に貢献しました。

③ 地域の関係者との連携

当館は、芝山町の観光協会および(一社)みどりと空のプロジェクトのメンバーとなっていることから、「スカイパークしばやま」エリアを起点として、町内全域への広域な誘客を図るため、町内の関係者と緊密な連携を図りました。また、成田空港活用協議会、九十九里観光連盟、成田市観光協会や多古町観光まちづくり機構等、県・空港周辺9市町の各観光担当・事業者との交流も積極的に図り、各地域の観光資源と当館をネットワークし相互に誘客・送客するための協力関係を深め、地域活性化の取り組みに協力をしました。夏には、「芝山夏祭り2023」の盆踊りやぐらが組まれました。

また、芝山町内の他の博物館2館との連携を強化し、敷地内の「空と大地の歴史館」へは中学生団体等の校外学習利用を促し、「芝山町立芝山古墳・はにわ博物館」とはイベントを共同で企画する等(「2023 はにわ俳句大会特別展」)、3館共同での誘客に努めました。

また、山武郡市の社会福祉団体に協力し、地域社会における心の拠り所となる同団体のベンチを設置し、来館者の休憩スポットとなっています。

(4) 収入確保の努力

① 収入の向上策

博物館売店の商品構成やレストランのメニュー立ての工夫を行うと共に、キッチンカー等の催事店舗を誘致したり、ワークショップ形式のクラフト教室を開催したり、出張販売をしたり、バッテリーカーをリニューアルしたりなどして、収入の向上策を講じました。また、SNS映えを狙ったフォトスタンドを屋外に設置し、賑わいを創出しました。

航空ジャンク市を、当年度は、JAL・ANA・芝山鉄道の出店に加えて、新たにNAA成田空港「退役グッズ」の販売プロジェクト、ジェットスター・ジャパンの出店をいただき、多くの来館者に満足をいただきました。

2023年度の博物館売店の売上げは、航空玩具・食品・航空模型等の販売が好調であり、前年度対比102%としました。新商品のリサーチや取扱商材の拡充を進め、特に、成田空港エール(ビール)の新商品アンバーエールやSNSで話題となったANAのグミ(青グミ)、JAL国際線ラウンジのお米をアップサイクルした「Japan Arigato Lager(ビール)」などの新商品を積極的に取り扱い好評を得ました。

レストランの売上げは、新規メニュー開発等で魅力度を向上させ、特に、機内食風ランチ・お子様カレー・カツカレー等の販売が好調であり、前年度対比115%としました。

第1旅客ターミナルビルの売店「バイプレーン」は、前年度休業し、当年度4月より再開しましたが、要員不足のため6月までは短縮営業とし、売上は、コロナ禍前の2019年度対比で73%としました。

キッチンカーは、大型イベントや繁忙期に合わせて、SNS等で人気のりんご飴専門店やイタリアンサンドイッチなど、従来のイメージとは異なるキッチンカー等、新店舗4社を含む13社を誘致し収入の向上に寄与しました。

(5) その他

① 出捐金の支援

芝山町から、出捐金をいただいたことで、開館以来の老朽化したエレベーターの改修工事や、突発的な空調故障による冷却塔の取換工事を行うことができ、お客様に安全で快適な博物館環境を提供することができました。

② ボランティアの協力

2023年度も引き続き、関係者の方々から、ボランティアとして、多くのご支援をいただきました。屋外展示されている航空機の洗機、草刈り等、当館の運営を折々に支えていただきました。

また、通年で36人がボランティア登録をし、体験型の展示物の案内を中心に、展示物の整備や環境整備、シミュレーターを使った航空教室、成田空港アクセスNゲージ体験等を企画し講師を務める等、当館の大きな支えになっていただきました。

③ 施設・設備の老朽化対策

本館・付属棟に係る建築・機械・電気関係の諸施設・設備の老朽化対策として、NAAグループを含め、関係者の方々の技術面でのサポートをいただきながら、2026年までの5ヶ年中期計画を策定し、順次対応をしました。厳しい財務環境下、投資管理を徹底し、優先順位付けを行いながら、2023年度は、エレベーターや冷却塔、消防用設備、給排水設備の改修を行い、安全・安心な館運営を続けることができました。

④ 組織力強化の取り組み

既存業務のあり方について、効率化・合理化の観点から見直しを図り、ガバナンスの強化のため、NAAグループ内の人事交流も行き、諸規程等の社内ルールや事務手続きについて、内容の精査と適宜改正を進めました。

また、博物館法が改正されたことにより、職員教育の充実が求められる中、社内研修の機会を設け、ビジネススキル基礎力向上研修、コンピテンシー(技能力向上)研修を、全職員向けに開催しました。これにより、業務改善の意識が高まり、脱自前主義により、外部の力を借りて業務を進めることや、従来の業務手順の見直し等により、職員の業務負荷の軽減が図れました。

⑤ 環境保全の啓蒙の取り組み

持続可能な航空燃料(SAF)を取り上げるイベントの開催や千葉県との協力を得て、NAAコーナーを活用したSDGs教育旅行プログラムの開発を、関係者と協働で取り組むなど、環境保全の啓蒙に取り組みました。

以上、2023年度の事業取り組みを踏まえて、2024年度は、先般3月に承認された「事業計画」に則り、35周年の節目、なお一層の努力を傾注して参ります。